

## ○ 令和元年度の経営目標達成状況及び令和2年度目標設定表

I. 最重点目標(成果測定指標)											
戦略目標	成果測定指標	新規	単位	ウエイト (R1)	H30実績	R1目標	R2目標	ウエイト (R2)	中期経営計画 (R1~R3)		R2目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載
						実績[見込]			R2目標	最終年度 目標	
① 栽培漁業センター事業の充実	稚魚放流尾数		万尾	50	44.5 <28.2>	28.0	↓28.0	50	—	30	ヒラメ、キジハタ、アカガイの3種を対象とし、H31.4に改定した中期経営計画の最終年度目標達成に向け、経営状況も加味しながら段階的に放流尾数を増加する目標とした。
<b>法人経営者の考え方(取組姿勢・決意)</b>											
<b>最重点とする理由、 経営上の位置付け</b>	<p>○大阪府海域ではベイエリア開発等により、親魚の産卵、稚魚の成育の場となる藻場や干潟が減少したため、この時期を人為的に管理する栽培漁業の取組みは極めて重要な政策課題。</p> <p>○府の水産課のマスタープランである「大阪府豊かな海づくりプラン」や「大阪府栽培漁業基本計画」において、栽培漁業の推進、放流効果の高い魚種への特化を重点施策として位置づけ。</p> <p>○当法人でも、府内の漁業の発展と漁業者の生活安定を図る観点から、大阪湾における水産資源の回復・維持と漁業生産の向上をめざすこととしている。</p>										
<b>最重点目標達成のための 組織の課題、改善点</b>	<p>○平成27年度から始まった第7次栽培基本計画の新規の放流魚種についての採卵方法や稚魚の育成技術、放流適地の把握などの知見を蓄積する。</p> <p>○生産・放流技術が確立した魚種については、生産コストを削減するための技術の開発、他府県との連携を進める。</p> <p>○新たに取り組む魚種については、適地や効果把握のための放流に努める。</p>										
<b>活動方針</b>	<p>○平成27年度から始まった第7次大阪府栽培漁業基本計画(平成27~令和3年度)に基づき種苗生産を確実に行う。</p> <p>○本事業を円滑に実施するため、施設更新や体制維持・構築に留意する。</p> <p>○大阪府、(地独)大阪府環境農林水産総合研究所水産技術センターとの業務分担、連携によって、円滑に栽培漁業を推進し、基金においては研究所と連携し、より放流効果の高い健全な種苗の生産を行い、資源増大を図るとともに、大阪府が中心となって、増大した資源の付加価値向上を図る。</p> <p>(業務分担)          &gt; 大阪府: 栽培漁業基本計画の策定及び進捗管理、栽培漁業推進協議会の運営等          &gt; 研究所: 栽培対象種放流後の効果の調査研究、新魚種の種苗生産放流技術開発、基金への指導、施設の維持管理          &gt; 基金: 栽培漁業基本計画に基づく種苗生産放流事業の実施</p>										
<b>具体的活動事項</b>											
<p>○第7次大阪府栽培漁業基本計画の遂行</p> <p>○栽培漁業センター事業充実のための施設、体制の検討</p> <p>○近隣府県との連携          ・稚魚の餌となるワムシの安全な確保          ・余剰種苗交換等効率的な栽培漁業の展開</p> <p>○第7次計画対象魚種の生産・放流技術開発の推進          ・ヒラメについては、従来行っていた親魚の仕立て、採卵を行わず、春期に稚魚を購入することで、冬期の使用燃油の削減等、効率的な飼育を行う。          ・キジハタについては、目標放流数10万尾を安定生産させるための効率的な親魚からの採卵、種苗生産に努める。          ・アカガイは、30mm大型種苗の放流を行うことにより、放流効果の向上を図る。</p>											

## II. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	ウエイト (R1)	H30実績	R1目標	R2目標	ウエイト (R2)	中期経営計画 (R1~R3)		R2目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定 の場合は、その理由も記載	戦略目標達成のための活動事項
						実績[見込]			R2目標	最終年度 目標		
① 栽培漁業センター事業の充実	栽培漁業センター見学者数		人	5	4,550	5,800 × 3,834	↓ 1,250	5 ⇒ 0	-	-	R2年度に施設改修を行う こと等を踏まえた設定	ホームページの充実等により小学生 等府民にPR
	稚魚歩留まり達成率 (実績歩留まり率(*1) / 計画歩留まり率(*2))		%	15	123.8	126.4 126.8	129.0	15 ⇒ 20	-	-	経営改善を図るためヒラメ 稚魚の購入を抑制しつつ、 必要な放流数を確保	稚魚の餌となるワムシの安定確保や 栽培技術力の向上等による、効率的、 効果的な種苗生産・放流の実施
	<small>(*1) 実績歩留まり率=放流尾数 / 種苗生産尾数=63.4%            (*2) 府栽培漁業基本計画の歩留まり=50%</small>											

## III. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)

② 法人運営の安定性確保	余剰種苗譲渡収入		千円	10	(19,969)	35,000 × 26,699	38,000	10	38,000	40,000	中期経営計画に基づき設 定	採卵親魚の仕立て、稚魚の選別等技 術力の向上による生残尾数の増加及 び譲渡先の拡大
	種苗生産コストの削減		千円	10	(59,104)	55,895 × 58,049	56,895	10	56,895	57,896	中期経営計画に基づき設 定	R1年度から取り組んでいる一部魚種 の種苗生産方法の見直しによる生産 コスト削減を継続
③ 管理費の抑制	管理費		千円	10	(27,320)	26,400 × 27,566	21,100	10	21,100	20,907	中期経営計画に基づき設 定	人件費、事務費等経費の削減

### 【凡例】

- ・☆はR2年度からの新規項目
- ・×は目標値未達成
- ・↓は前年度実績比マイナスの目標値
- ・〔 〕内の数値は、参考として記入した実績見込値
- ・( )内の数値は、当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値
- ※< >内の数値及び稚魚放流尾数のR2年度目標値は、ヒラメ、キジハタ、アカガイの3種分の数値。H30実績値は、同3種にマコガレイを加えた数値。